

# 新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 西村 和夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族とともにご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年12月14日に行われた衆議院議員選挙では、与党の自民・公明の両党が議員定数の3分の2を超える326議席を獲得しました。

安倍晋三首相は、この結果を受け、「機動的な財政政策」「大胆な金融緩和」「民間投資を喚起する成長戦略」という「3本の矢」を掲げた経済政策「アベノミクス」などの信任が得られたとし、今後は更にこのアベノミクスを中心とした政策が推し進められていくこと

と思います。

しかし、アベノミクスの副作用ともいえる円安、昨年前半まで続いた世界的な原油高による輸入品価格上昇に伴い、飼肥料などの生産資材、食料品価格が上昇する結果となり、中小企業や国民生活、そして、農業経営・農家所得を圧迫することとなりました。

また、昨年5月14日には、規制改革会議農業ワーキンググループより、「農業改革に関する意見」が提出され、6月24日には「規制改革実施計画」が閣議決定し、農協系統組織に自己改革を求める内容が示されました。

J Aグループ北海道は、組合員皆様からの意見や提案をもとにJ A・連合会・中央会の各組織が自己改革に取り組む上での指針として、北海道独自の「J Aグループ北海道改革プラン」を示しています。

この機会に協同組合の理念に今一度振り返り、原点を見つめ直し、改革はあくまでも自らで行うとい

う基本に基づいた内容で進むべきだと考えております。

また、TPP交渉に関しては、引き続き注意深く、その動向に目を向け、生命維持産業と食料の安全保障の観点から、農業に担う使命に基づく行動をJ Aグループと共に進めていきたいと考えております。

また、J Aしずない・J Aにかつぷ・J Aひだか東の3J A合併につきましても、平成28年2月が目標となっており、今年が大変重要な1年となっております。3J Aと引き続き協議を進めていき、組合員皆様の理解と協力の中で、あるべき姿となれるよう努力して参ります。

地域の基幹作目については、各作目とも厳しい環境下のもと、個々での創意工夫と更に各振興会を中心に「安全・安心・良品質」確保に取り組んできた結果、全体の取り扱いで当初計画を上回る成果となりました。各位のご苦勞に敬意と感謝を申し上げます。

次に各作目別について申し述べ

ます。水稲は、全道作況指数107、日高108の4年連続の豊作とな

り、数量については増加したものの、昨年は大きく米価が下がったこともあり、計画対比で約340万円の減少となりました。

ミニトマトを中心とした青果ですが、当地区のブランド品として定着したミニトマト「太陽の瞳」については、6月に先進地域である九州地方と出荷時期が重複し、単価が伸び悩んだ時期もありましたが、これまで培ってきた栽培技術などにより、出荷数量は過去最高となり、取扱金額についても過去最高であった昨年の7億5000万円を上回る8億5000万円となりました。

酪農については、前年比で乳価（kg単価）が上昇し、また、出荷乳量についても前年比で増加したため、計画対比で約1400万円の増加となる見込みであります。

黒毛和牛は、素牛産地としての評価を高めるため生産組合員一丸となった素牛づくりを進めております。

黒牛市場は、素牛の不足感から活況を呈していましたが、昨年も年間を通して、購買価格は高値で推移しました。

本年度（平成27年1月末）は、